

会議議事録

議事記録者：鮎川幸乃

会議名	令和4年度 第2回学校関係者評価委員会
開催日時	令和4年12月6日 火曜日 18:30~19:45 (1時間15分)
場所	マロニエ医療福祉専門学校 3号館 視聴覚室
出席者 (敬称略)	<p>①評価委員</p> <p>北條 豊 (合同会社あゆみの森 代表社員) 須藤 智宏 (医療法人心救会 小山富士見台病院) 渡邊 芳江 (公益社団法人 栃木県看護協会 常任理事) 茂木 明男 (MO 後援会 会長) 日原 芳行 (マロニエ同窓会 副会長)</p> <p>(計5名)</p> <p>欠席：川村 祐也 (医療法人常盤会 緑の屋根診療所) 中里 佳純 (大澤歯科医院)</p> <p>②学校教職員</p> <p>羽山 潔、(校長)、宮内 修 (司会、統括部長)、赤坂 宏美 (統括部長補佐/助産学科長)、 矢口 剛 (リハビリテーション学部長)、今井 貴子 (看護学科長)、金久保 浩 (介護福祉学科長)、 栗田 礼子 (歯科衛生学科長)、絹谷 幸男 (事務局長)、小林 秀子 (学生サポートセンター長)、 山田 宏美 (広報課長)、鮎川 幸乃 (学校評価事務局、総務課)</p> <p>(計11名)</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度 第2回学校関係者評価委員 次第 (事前配布) 令和3年度 自己点検・自己評価結果 改善現状報告 (事前配布)
進行 議題内容 各詳細は 別紙の通り	<p>1. 開会 (挨拶、配布資料確認)</p> <p>開会が宣言された後、配布資料の確認を行った。</p> <p>2. 校長挨拶</p> <p>羽山校長より開会の挨拶が行われた。</p> <p>3. 学校関係者評価の進め方説明</p> <p>本会の進め方の説明が行われた。報告書は事前配布のため、その場での読み上げは行わず、内容に対する質疑応答を行う旨が伝えられた。</p> <p>4. 自己評価結果に対する改善と現状報告 質疑応答及び補足説明</p> <p>報告に対する質疑応答及び補足説明が以下の順に進められた。(別紙1)</p> <p>委員による下記以外のその他意見等は、別途「学校関係者評価報告書」に記載する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 将来の学校構想について 2. 求められる人材像の把握とその発信について 3. 「他部署 stay」について 4. 授業評価について 5. 学生対応業務・フォローの範囲について 6. 学生相談について

7. コロナ禍における学生指導について
8. 出願数について
9. (7) 学生の受入れ募集 のコロナ禍にあつての評価数値について
10. 学校の SNS があること自体の周知について
11. 学校評価について

5. 意見交換と学校関係者評価の総評

委員会全体を通しての意見交換（別紙1）が行われた後、羽山校長より総評が伝えられた。

—閉会—

4. 自己評価結果に対する改善と現状報告 質疑応答及び補足説明

1. 将来の学校構想について

【委員からの質問】

- ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているならば、2030年度の少子化問題に対して、具体的な将来構想を示してほしい。（茂木）

【回答・補足】

1 将来的な入学生の確保

- 出前授業や本校を会場とした公開講座等を積極的に行うことで、医療福祉の各分野の仕事の大切さややりがいについて理解を得る。そのことを通して、将来の受験生を育てていく。
- 地域貢献事業として、医療や健康に関係した様々なセミナー、ボランティア活動に参加し、地域に認められ、求められる学校になる。

2 リカレント教育

- 将来的に国家資格を持ちながら、現状で職に就いていない人達、現場で働いているが、技術の進歩や社会変化に対応した専門職としての知識や技術を学びたいという人達に対する学習のコースを提供する。

3 その他

- IPEの強化（チーム医療の時代に対応）（羽山）

→2020～2030年で栃木県では3000人以上の子どもが減少すると言われている。影響を心配していたが、出前授業や地域貢献などの構想を聞いて安心した。職業を知ってもらうことで募集活動にも繋がると思う。アナウンス力が大切。子供たちの人数が減っていく中で入学生を確保するのは大変だと思うが、これからもなるべく多くの学生が入学し、ここで学んで国家資格を取るようにして欲しい。（茂木）

2. 求められる人材像の把握とその発信について

【委員からの質問】

- ・学校入学前のから卒業後の展望がイメージできるというのはすごく良いことだと思います。「どのように求められた人材像」を把握するかと同時に「どのようにアピールし就職につなげるか」も重要であると考えます。その点についてイメージされていることがあればお聞きしたいです。（日原）

【回答・補足】

- ・本法人にとって入口（学生募集・入学）の顧客は高校生・保護者、高等学校、一方で出口となる就職先・活躍の場における顧客は、福祉・医療施設、広くは地域である。それぞれの場に対し、入口では「卒業時どんな姿に成長するか」出口では、「卒業後、職場に適応し、その職業で働き続けるための要素とは」を意識して、教育活動の組み立てや情報を発信することが必要だと考えている。ビジョンプロジェクトでは、IPEの実施にとどまらず、そこから発展する複数の学科が併存する専門学校ならではの学生たちの交流により、コミュニケーション能力を向上させ、魅力的な学生生活を送れる学校として強みをアピールしていきたいと構想している。また、出口に働きかける取り組みとして、ビジョンプロジェクトでは、今年度、「社会人基礎力

育成研究会」を立ち上げ、学生を職業人として社会に送り出すために、教員自身が学生をよりよく知り、何を身につければよいのか、どうすれば身につくのかを、中期的な視点に立って研究し、学校全体に波及させていく活動を開始した。まだ始動したばかりだが、内外の知見を集め、広い視野で専門職業人を養成していきたいと考えている。(赤坂)

3. 「他部署 stay」について

【委員からの質問】

- ・「他部署 stay」とても良い取り組みかと思います。どれぐらいの頻度で行っているのか？又、職員のご感想や働き方の改善策として出てきた案などありましたら教えてください。(須藤)
- ・他部署訪問について、資料には他部署の働き方や仕事環境を学びと書いてあるが、法人として統一されている基準、学校としての基準、部署の基準、どの範囲でどの程度定められているのか？部署ごとの基準等の自由度がどの程度あり、何を学んでいるのかをお聞きしたいです。(日原)

【回答・補足】

- ・まだ実施に至っていないが、2月9日に予定している。
各部署から出た課題を元に、実施する部署、行先、内容等を検討した。当日の業務をお互いに見て学ぶことになる。
内容は学生対応、保護者対応、時間割の組み方、非常勤講師対応等になるが、法人や学校の基準というよりも、部署ごとの経験則によるところが大きい。また、特にマニュアルを作るというよりも、対外的に常識的な対応がどの部署でもできるように、効果のある内容にしたいと考えている。(金久保)

4. 授業評価について

【委員からの質問】

- ・具体的に授業評価をどのように行っているのか？科ごとに項目や基準があるのか？お聞きしたいです。(日原)

【回答・補足】

- ・学生に対してテスト終了後に google フォームを利用した授業アンケートを取っている。
対象科目は臨地実習の除く科目全て。
項目は法人として統一している。座学系と実技系で分かれていて、授業環境や組み立て方、教員の教授方法、テスト勉強についてなどの項目について4段階で評価をつけてもらっている。加えて、良かった点と改善した方が良い点の2つの任意の記述欄を設けている。(鮎川)
- google フォームを利用しているとのことだが、学籍番号など回答者個人を特定できてしまうようになっているのか。また、アンケートの目的は教員が次期や来年度の授業の改善にいかすということで良いのか。(渡邊)
- 入力内容に学籍番号など個人が特定できる要素は含まれていない。目的についてはその通りである。(鮎川)
- 以前は紙でその場で実施していたのを google フォームに変更したことで、当初は回答率低下の懸念があったが、少なくともリハビリテーション学部の方は回答率もそれほど落ちずに維持できている。また、評価内容についても予想から大きく逸脱しないところで収まっている。

るところをみると、学生もきちんと考えて回答してくれているのではないかと思われる。
(矢口)

5. 学生対応業務・フォローの範囲について

【委員からの質問】

- ・介護：退学率が上がっているようだが、本来の専門学校としての役割をこえての業務・フォローが増えている印象。収入とのバランスもあるため、入学基準についてはふれないが、法人としての学校の役割をどのように考え、どの程度のフォローを職員に求めているのか気になりました。
(日原)

【回答・補足】

- ・退学者数は例年 1～2 名であるが介護福祉学科の学生数（母数）が年々減少していることから退学率で算出すると増加している。なお、退学者の学校の総数自体は減っている。
また、年々多様化する学生（学習習慣、意欲、学力、メンタル等）に伴い、個々の学生に対応する時間はどうしても増加せざるを得ない。その状況でどのように対応するか学校として考えていかなければならない。
なお、対応の質向上のために委員会活動を盛んに行っているが、これは役割を超えた業務というよりは、課題解決自体を個人ではなくチームとして行う方向に転換したためである。
程度に関しては具体的なはっきりとした線引きは難しいが、教育理念や目標・ディプロマ・ポリシーに基づき、できる限りの対応をさせていただいている。(宮内)

6. 学生相談について

【委員からの意見】

- ・学生相談件数、解決事案は何件、未解決事案は何件、数字で示してほしい。また、大まかな内容は何か？(茂木)

【回答・補足】

- ・本法人では、おもに学生相談室と学生サポートセンターで学生の相談を受けている。
相談件数については、学生相談室での扱い件数が、2019 年度 52 件、2020 年度 39 件、2021 年度 57 件、2022 年度現時点 40 件。対応している案件は、友人・教員・家族などの人間関係等が主な内容であり、専門のベテランの公認心理士が対応している。こちらは内容的に解決未解決のはっきりとした判断が難しい。
学生サポートセンターでの扱い件数は、2019 年度 23 件、2020 年度 30 件、2021 年度 32 件、2022 年度 11 月末時点 16 件で、対応している案件は、学校・学習・教員など学生生活に関する問題が主で対応が必要な案件に関しては、法人として組織的に把握・対応し全て解決していると認識している。(小林)

7. コロナ禍における学生指導について

【委員からの意見】

- ・(5) Q4 の学生の健康を担う組織体制はあるかで、新型コロナ感染の観点から学生の行動制限や会食時の注意等を啓蒙しているか？(茂木)

【回答・補足】

- ・新型コロナウイルス感染症の基本的対策としては、国および県からの指導のもと検討を重ね、学生には感染防止のための取組（検温、手洗い、手指消毒、学生同士の距離確保、教室の換気励行、複数人が触る箇所の消毒、発熱等の症状が見られる学生の登校自粛等）を実施するとともに注意喚起を行っている。また、学校としては、学生の健康観察を実施し感染状況を把握、特に実習前には行動制限の要請等を行うなど適切な感染対策を講じて、学修機会の確保に努めている。（小林）

8. 出願数について

【委員からの意見】

- ・各学科出願数はどれくらいなのでしょう？年々増加しているのでしょうか？（中里）

【回答・補足】

- ・令和3年度はコロナ禍での入試となっているが、今まで県外志向だった方がコロナの為県内で収まった傾向にあり、出願数がやや増加した。また、早めに進路を決めてしまいたいということで出願自体も早めに出てきていた。

ただ全体的に近年を見ると、年ごとの出願数の激しい増減は見られない。（山田）

→助産学科の出願数について、人数が増えると選考が難しくなると思うが、どうしているのか。（茂木）

→出願数が増えたとする学生を選べるようになるため、逆に選考は楽になっている部分がある。特に推薦は単願のため、出願者の熱量や能力も上がってきている印象がある。出願数の増加については、オープンキャンパス等でカリキュラムの内容をかなり詳細に伝え、また、教員と学生の関係性を実際に見てもらっていることが要因として考えられる。この状態を維持していきたい。（赤坂）

→出願があるところがある一方で定員割れしているところもあり、少しもったいないと思った。設備等の問題もあると思うが、定員はどの程度柔軟に変更できるのか。（日原）

→募集が順調な学科として学校のために何ができるかということは考えている。助産学科としては助産師になりたい方を多く受け入れ、輩出していきたいところではあるが、少子化で産科自体が減っており、実習の質の確保が非常に困難となっている。そのため、定員の増加は容易にはできない。（赤坂）

→ご努力されていると思う。実際の医療の現場では出産数が非常に少なくなっている。また、2つの命を預かるというハイリスクな面から、産科はやらず婦人科のみ扱うという病院や、廃科する病院も多い。県内の大学病院では半数以上が正常分娩ではなく、助産師の出番がない。資格がいかせないという場面が少しずつ出てきている。出願数も多く、将来の展望もある一方で、卒業生が臨床に出て資格をいかせているかということも見ていく必要があると感じている。（渡邊）

9. (7) 学生の受入れ募集 のコロナ禍にあっての評価数値について

【委員からの意見】

- ・ 前はコロナ禍であっても評価があがっており、今回はコロナ禍で下がったと分析されている。その違いは何でしょうか？（日原）

【回答・補足】

- ・ 分析内容はコロナ渦との関係はない。
学生募集活動はおおよそ従来通り高校訪問やガイダンスを実施している。
また、Q2 を評価 4→2 に変更した理由としては、前回（7/5 第1回学校評価委員会）にてご指摘があり、介護福祉学科の募集停止に至った事を踏まえ成果という観点で再度点数の見直しを行い、今回評価を変更させていただいた。（山田）

10. 学校のSNSがあること自体の周知について

【委員からの意見】

- ・ SNS とあるが、そもそも知らなければ見ない。高校の進路指導者や担任からのアプローチで見ると、保護者ともに興味を持つ。
（これらについて）どう考えているか、具体的な方策はあるのか？（茂木）

【回答・補足】

- ・ SNS については、ホームページに Instagram と YouTube へのリンクがあり、更新されたものがそのまま表示されるようになっている。また、パンフレットに掲載するほか、オープンキャンパスやガイダンス等でも参加者に案内しており、在校生の保護者の方には MO 後援会報紙で QR コードにて案内している。
また、もともと SNS については高校側からのアプローチはなく、本校からのアプローチをする形となっている。
SNS では、学校行事や案内、IPE・オープンキャンパスの様子などを発信している。
Instagram（2018.10～）：フォロワー数 806、投稿数 392（山田）

11. 学校評価について

【委員からの意見】

- ・ 今年度の状況、今後の活動の展望等で、ビジョンに基づく様々なプロジェクトが動いており、マンパワーも分散している状況にあるため、学校評価そのものに関する方策を組織的に行うのは、現状難しいとあるが、ならば評価委員会はいらぬ。存在意義がない。
組織的に行えないのであれば、個人では行えるのか、行えないと考える。
なぜならば学校は組織図で示しているように組織で動くからである。
ガバナンスに問題が生じるこの文章は、ここにいる評価委員に対して、大変失礼である。
学校として、この評価委員会をどう考えて、開催しているのか、学校としての見解を詳しく伺いたい。（茂木）

【回答・補足】

- ・ まず、文章についてはこちらの言葉が足りなかった部分があり申し訳ない。現状組織的に行えているが更に発展させて行うには、という意味の文章だったが、組織的に行えていないというところが強調されてしまった。しっかり報告書の文章も組み立てを考えていきたい。

自己点検自己評価については、学校の組織的・継続的な改善を図るために教育活動その他の学校運営について目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について点検、評価をしている。

学校関係者評価委員会は、この自己評価を、学校に関係の深い方々（学校関係者）に客観的に評価していただくことで、学校が学校だけでは気づき得ないことに気づき、結果として自己評価そのものの質を高め、次への改善につなげることを目的として実施している。（宮内）

5. 意見交換と学校関係者評価の総評

—意見交換—

- ・今年度の内定状況はどのようになっているか。（茂木）

→歯科衛生学科

- ・3年生は実習が早く終わり、その分国試対策と就職活動も例年より早めに取り組んでいる。

現時点で例年よりも多くの学生が内定をいただいております、昼間部は約7割の学生が内定済み、夜間部も残り2名となっています。（栗田）

リハビリテーション学部

- ・今年の特徴としては、施設側が募集をかけてもなかなか人が来ないということから、募集そのものが早く来ており、それに合わせて就職活動も早めに始まっている。傾向としては実習施設を希望する学生が多い。また、3～4年前から国試の可否を待って活動を開始する学生も増えているが、その時点で開始してもありがたいことに求人数の余裕はある。

（矢口）

助産学科

- ・95%の学生が内定済みで、現在最後の1名が結果待ちとなっている。今年は、県内は安定していたが、県外の活動が厳しく第3希望まで受けた学生もいる。（赤坂）

看護学科

- ・卒業予定者の98%が内定をいただいている。内定先は県内実習病院がほとんどで、数名いる県外出身の学生が出身地に戻る予定となっている。時期としては早めになっており、夏には決まっている学生も多かった。（今井）

介護福祉学科

- ・卒業予定者の44%が内定をいただいている。そのうち数名は実習先で施設側から声がかかった。未内定者のうち1名も同様に施設側から声がかかっている。また、残りの学生のうち2名も現在施設見学中。動いていない学生が若干名いるが、学力が低く、まずは確実に卒業を目指すため勉強に励んでいる。介護は国家試験が1月と早い時期にあり、また実習が11月までであるため、この時期を逃すと2月以降の就職活動、内定となる。（金久保）